

一層の地産・地消と 町内商店の利用を



平八重光輝議員

平八重光輝議員 平成十七年度から「学校給食センター」が稼働し、町内の八小学校と二中学校への配食が始まる。現在、主食のご飯については、委託炊飯されており、使われている品種も「花さつま」と聞いている。給食センターの稼働により、地元銘柄米「奥さつま(ヒノヒカリ)」を使用し、子供たちにおいしいご飯を食べてもらい、地元米の消費拡大を図っていく考えはないか。

地元産米を使いたい

北村町長 「学校給食センター」については、平成十七年度からの供用開始に向けて取り組んでいる。食糧に対する安全・安心志向の高まりを背景に「地元産・地元消費」の推進が全国的に叫ばれ、農林水産業だけでなく各分野において、地域資源を活用した地域活性化への取り組みが増えてきている。学校給食の「ご飯は、一学校を除き委託炊飯で「花さつま」を使用している。学校給食は、安全な食事を提供することが第一である。委託加工料も不要になることから、週三回の米飯について可能な限り、「ヒノヒカリ」を使用するよう関係機関等と協議したい。



地元食材を使った給食の試食会(宮之城中学校)

副食・菓子類も町内利用を

平八重議員 副食材料や菓子類等も町内商店を利用し、そして、お茶についても、いろいろな効用もあることから、積極的に消費拡大を図る考えは

ないか。

町長 給食センターは、特に衛生的で安全性を重視した施設となる。納入業者についても食品衛生上の問題や定時、定量、定買の品揃え、さらには安価といった一定の条件を伴う。現在でもその大半を町内の業者から購入している。今後、町内で調達できる食材については、可能な限り、町内から購入する方向で対応したい。

お茶も飲ませたい

福留教育長 各小学校に給茶機を設置してあるが、現在のところ、あまり飲まれていないようである。むしろ、うがいなどに使われているようである。給茶機も設置してあることから、飲んでもらうようにしていきたい。